

静岡文化芸術大生

中山間地域の集落維持を研究する静岡文化芸術大(浜松市中区)の学生が3日、同市天竜区佐久間町浦川の地八地区で地域の実情を探る住民への聞き取り調査を実施した。結果を基に集落存続の方策を検討・提案し、地域づくりに生かす。(水窪支局・塩合将広)

調査を行ったのは文化政策学科の船戸修一准教授とゼミ生4人。同集落の全5世帯の住民8人を訪ね、家族や親戚の人数や居住地、集落を出た子ども(他出子)の帰省頻度・目的などについて熱心に話を聞いた。

天竜区・佐久間

集落存続へ聞き取り



住民から聞き取り調査を行う学生ら＝浜松市天竜区佐久間町

今後、子孫などにもアンケートを行い、「将来11月の地区の祭りで結果的に集落に戻る意志があるか」などを確認する。を住民らに伝えるとい

方策検討 地域づくりに

リーダーの鈴木晴香さん(20)は「他の集落での調査では、故郷の家を継ぐ意志を持った子孫が一定数いるが、親と意思疎通していないことが多い。子どもの意志を親に伝える機会をつくり、世帯だけでなく集落全体を元気づけたい」と話した。同ゼミは、2013年から天竜区内の集落調査に取り組んでいる。世帯数や人口、高齢化率だけでなく、他出子の居住地や支援状況なども考慮して存続について考えている。子孫を集落に招いた行事の開催も検討している。本年度は佐久間町内の複数の地区を対象に調査を行う。